

実施日：6月13日（5校時）	
領 域：道徳	
取組名：ネットいじめについて	
対 象：全生徒	実施場所：各教室
ア ねらい ネットいじめに対して、自分が加害者にも、傷つく被害者にもならないために大切なことを考えさせる。	
イ 指導内容(指導略案)や取組の概要(例 3年) (第1次)準備物 DVD「クローズアップ現代 ケータイが生む新たな“いじめ”」(NHK) 導 入 DVDを視聴する。[別紙③] 展 開 加害者、被害者の心理を考える。 いじめとなり得る問題について考える。なんで直接、口で言わないのか考える。 DVDを振り返り、被害者の思い、加害者の思いについての考えを書く。[別紙④] まとめ ネットいじめについて感想を書く。 (第2次)準備物 資料1「そのとき、キミならどうする!?!」 新聞記事[別紙⑤] 導 入 資料のワーク「そのとき、キミならどうする!?!」に取り組みさせる。 ケータイで広がる楽しみを出させる。 展 開 前時の復習をする。「ネットいじめとは?」 新聞記事[別紙⑧]を読む。 このような事件を生まないためにも、私たちがすべきことは何かを考えさせる。 前時のワークの内容を知らせる。[別紙④] 加害者にも被害者にもならないために、どんなことが大事か考える。 まとめ ネットいじめについて自分のできることを中心に感想を書く。	
ウ 連携先：保護者、兵庫県情報セキュリティサポーター 篠原嘉一、篠山警察	
エ 連携にむけての取組 保護者参観日に全校が情報モラルに関する教材を取り上げ実施した。ネット上でいじめにあっている兆候は学校でほとんど見えないので、家庭での様子の変化や、ネットにのめりこんでいる状況があれば保護者に声をかけてもらうと共に、連絡をするように学年・学級通信等も利用して依頼した。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 「ネットの危険性」の講演につながるようにした。さらに、学活でも利用の仕方を取り上げ、いじめにつながっている危険を各自に考えさせるようにした。具体的な取組としては、①いじめに関するアンケート実施 ②アンケート結果から担任の教育相談 ③全校集会で呼びかけ④講演会(情報セキュリティサポーター、篠山警察)⑤学級で繰り返し指導 学校改革委員会、生徒指導部会、道徳部会、人権部会、PTA委員会、小学校と連携してネットの対人トラブルや不正アクセスなどの問題につながる課題に取り組んだ。	
カ 評価の方法 生徒の感想文[別紙⑨]や、毎日の連絡ノートへの記載、さらに教育相談週間を設け、実際に生徒の声に耳を傾け、学習した内容が自分に正しい方向に理解されているかを確認する。	
キ 成果 アンケート、授業、講演会(2回)につなげることで、以前よりネットの利用の危険性を新たに知ることができた。さらに、ライン等を通しての交友関係に時間をとられ、現実での友人関係がうまくできない生徒が増加する中で、ネットで感情を伝えて誤解を多く生んでいる現実に葛藤する生徒もおり、相談してくる生徒がでてきた。また、教室内で自分のネットの使用状況を話し合い、インターネット等に起因する心のすれ違いや危険の確認をするなど、友だち同士で顔をつきあわせて会話する場面を見ることができた。	
ク 課題 ライン等を通しての交友関係や、自他のうわさ話を気にして早く情報を入手したいと振り回されている生徒は増加している。よって、人間関係が希薄になっており、人と人との直接的なコミュニケーションをとることが苦手とする者も増加している。一旦、学校で真面目に考えても、家庭に戻るとネットの世界に入り込み、依存してしまう。いじめ事象を敏感にとらえて一人一人の教育相談をしたり、学級や学年への指導につなげたりしていく必要がある。	

